

河川砂防技術研究開発公募（河川技術分野）

平成 27 年度採択テーマ 中間評価結果

テーマおよび概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	パイピングに伴う堤防劣化を考慮した河川堤防評価技術の開発	名城大学 小高 猛司	a	模型実験による浸透にともなう堤体の崩壊パターンの分類・整理や模型実験の再現計算などメカニズム解明、危険度評価解析法開発、信頼性解析の3つのテーマそれぞれについて着実に研究開発が進捗していることから、現行のとおり推進することが妥当と評価する。
概要	透水性基礎地盤に起因する堤防の崩壊機構を解明し、それに基づく危険度評価法を開発するとともに、対策優先度決定に資する信頼性解析法を提案する。			
テーマ	弱点箇所抽出技術の開発	岡山大学 西垣 誠	b	機械ボーリングを補間する調査法（表面波探査と電気式コーン貫入試験や空気圧トモグラフィー等）の検討や現地試験が進んでいる。検討している個々の調査法が現場での弱点箇所の抽出に活用可能とするための道筋にも留意しながら、研究開発を継続することが妥当と評価する。
概要	本研究は河川堤防の弱点箇所を把握する調査技術の開発、模型実験、新たな解析手法の研究を行うものである。			
テーマ	透水性基礎地盤を有する河川堤防の進行性破壊を考慮した総合的安全性点検のための評価手法と破壊抑制に関する技術研究開発	名古屋工業大学 前田 健一	a	パイピングの変状の進行度、水位、透水性基盤の土層パターンとの関係を明らかにするなど新たな知見が得られおり、着実に研究開発が進捗していることから、現行のとおり推進することが妥当と評価する。
概要	漏水・噴砂、内部侵食の履歴を考慮し堤防と外力特性を一体で捉えた安全照査・点検、破壊抑制、性能把握と危険度予測の方法を提案する。			

評価の凡例

a: 非常に優れた研究であった。

b: 優れた研究であった。

c: 条件付きで評価できる（研究費の減額等）。

d: 優れた研究ではなかった（研究の打ち切り）。